

厚生環境教育常任委員会視察報告書

厚生環境教育常任委員会委員長 若尾敏之

1 日 に ち	令和6年10月30日（水） 9時30分～11時20分
2 視 察 先	石川県能美市
3 参 加 者	委員長：若尾敏之 副委員長：黒川昭治 委員：獅子野真人、城處裕二、寺島芳枝、仙石三喜男、嶋内九一 福祉部長：加藤洋子 議会事務局：武井かぐみ
4 調 査 内 容	能美市重層的支援体制事業について
5 所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等	■能美市は、地域共生社会の実現を目指し、多層的な支援を提供するため取り組んでいる。 ・子どもの健全な成長を支援するためのプログラム：学校や地域のイベントを通じて、子どもたちの学業やスポーツ、文化活動をサポート。 ・家族の支援：絆を強化し、家庭内の問題を解決するための相談やカウンセリングを提供。 ・地域コミュニティの活性化：地域の人々が協力し合い、地域の活性化を図るためのイベントやワークショップを開催。 ■住民がより良い生活を送れるよう、地域全体で支援を行うことを目指している。 【主な質疑内容】 ・ 取り組みと、課題・成果について 昨年度から「参加支援事業」、「多機関協働事業」、「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」に本格的に取り組んでいる。各事業所への委託が多く、連携や役割分担をさらに進めていく必要がある。また、ポスター掲示、ちらし配布、SNS・ホームページでの情報発信、相談会の開催などで周知を行っているが、不十分であるため、相談時に他の事業サービスの内容・利用方法の情報提供をするとともに、利用環境を整えている。成果の検証は順次行っていくとのことであった。 ・ 住民との協力関係の構築方法について 地域力強化、互助活動支援、相談支援、地域医療・介護、健康づくり・予防の5つの分野の専門部会や協議会を置き、連携・協働を図る体制とした協議体「のみ共」と、行政の副市長がリーダーの「横糸プロジェクトチーム」で共有化や活動の推進に向けての協議体制としている。 ・ 包括的相談事業について、相談窓口に来訪できない人の把握について

町内会・民生委員からの情報提供、「あんしん相談センター」の職員が訪問する取り組みを通して把握。

アウトリーチ支援事業は、障害相談支援事業所に委託。専属のアウトリーチ支援員※を配置し、関係機関や地域との連携から得た情報や、支援会議等で決定されたプランをもとに家庭訪問を行っている。

※アウトリーチ支援員：精神保健福祉士か社会福祉士の国家資格を有し、2年以上ひきこもり支援業務に従事した実務経験者としている。

・のみ地域力強化ファンドの、財源及び活動内容について

市の補助金及び貸付金をベースとし、市民や企業からの寄付を受け入れている。

助成対象は、子ども食堂やつながりの場づくり、買い物や交流の場への移送支援、外国人の生活支援。

移送支援は6団体あり、車両の確保は各団体が工夫している。自宅で受けられるサービスが充実している世の中ではあるが、外出し、自身が考え行動すること、また他人と触れ合うことで活力を得られているとのこと。

【所感、提言事項等】

能美市は、3つの町が19年前に合併しており、合併前のそれぞれの地区が構築した体制が基盤として機能している。それらを市が統括し、支援体制を強化することで整ったと言える。

各地区に総合的な窓口として「あんしん相談センター」があるが、委託先は医療機関・社会福祉協議会・社会福祉法人と異なっている。各地区で生活支援の実績がある事業所を選定し、より地域密着型となっている。元は市直営で実施していたものを地域に移管することで、より身近な相談窓口となり、市民に浸透している。培ってきた地域力があって成り立っていると思われる。

6 写 真 等



能美市役所にて

※視察先1件に1枚作成すること。